

放射線影響学会ワークショップ
低線量（率）被ばくの生体影響を考える
～ 科学的事実に基づく情報発信のために ～

主催：日本放射線影響学会

後援：科学技術振興機構 「放射線安全確保に資するコミュニケーション技術開発と専門家ネットワーク構築」

企画：日本放射線影響学会震災対応委員会、Q&A 対応グループ

開催趣旨：

福島第一原発の事故を受けて、コメントや説明を求められることが多いと存じますが、専門家としての発言は科学的データに基づいていることが重要であります。日本放射線影響学会震災対応委員会は、低線量放射線影響に関する研究の現状と動向について専門家が情報を整理し共有する機会の一つになればと考え、「放射線安全確保に資するコミュニケーション技術開発と専門家ネットワーク構築」プロジェクトの一環として低線量放射線の生体影響について現状と課題を整理するために本ワークショップを企画いたしました。

今回は、これから特に問題となってゆくであろう子どもや次世代への影響を取り上げます。これまでの研究情報を整理することに加え、参加者によるディスカッションに十分な時間を確保するようにいたしました。参加各位におかれましては、科学的・客観的な事実を共有した上で、それぞれの情報発信活動につなげていただければと思っております。

ディスカッションを充実させるために指定発言も募集いたします。参加人数には制限がありますが、ぜひ、発言されたいという方はもちろん、ご興味がおありの皆様多数のご参加をお待ちしております

開催日：2012年10月30日（火）10：30～10月31日（水）12：00（時間は未確定）

開催場所：かんぼの宿「郡山」

福島県郡山市 JR 磐越西線「磐梯熱海」下車、徒歩7分

参加費：会場宿泊者は2食込み11,000円（当日集金）、会議のみ参加は無料

定員：70名（先着順で締め切ります）

会場での宿泊は50名を確保しておりますが、全て相部屋になります。会場宿泊の限度を越えた場合や、個室を希望される場合は、各自で近隣の宿泊施設をご予約下さい。

参加申込み期限：2012年10月14日（土）

定員に達した場合はこれ以前に締め切る場合があります

プログラム：

【10月30日】

10:30～10:35 開催趣旨の説明-----田内 広（茨城大）

I. 報告 座長：鈴木啓司（長崎大）

10:35～11:40 「福島の現況と県民健康管理調査を通じた長期的な健康管理」
-----大津留晶（福島県立医大）

11:40～12:50 （昼食）

II. 疫学調査から見てきたこと

座長：島田義也（放医研）

- 12:50～13:30 原爆被ばくにおける低線量影響の現状と胎児被ばく-----笠置文善（放影協）
13:30～14:10 チェルノブイリ・セミパラチンスクにおける疫学調査から--柴田義貞（福島県立医科大）
14:10～14:40 継世代影響の調査-----浅川順一（放影研）
14:40～15:10 高 BG 地域の調査結果-----秋葉澄伯（鹿児島大）

15:10～15:40（休憩）

III. 動物実験から見えること（細胞・分子レベルも含めて）

座長：宇佐美徳子（高工ネ研）

- 15:40～16:10 低線量長期被ばく実験と胎児被ばく、次世代影響-幼若期被ばく---柿沼志津子(放医研)
16:10～16:40 次世代影響「低線量率 γ 線連続照射オス親マウスの仔・孫への影響（中間報告）」
-----田中 聡（環境研）
16:40～17:30 ここまでの質疑・ミニ討論

17:30-18:40（夕食）

IV. 討論：次世代影響をどう考えるか？

進行役：松本義久（東京工業大）、三谷啓志（東京大）

- 18：40-19：00 話題提供：広島原爆被爆者2世にみられた94例の白血病
-----鎌田七男(広島原爆被ばく者援護事業団)
19：00-19：20 最近の論文紹介: Lancet：胎内放射線被ばくと脳腫瘍、白血病 など
-----吉永信治(広島放影研)

(休憩)

19:20～20:40 次世代影響についての議論 * 指定発言挿入

【10月31日】

V. 内部被ばくの核種影響をどう考えるか？

進行役 立花 章（茨城大）、松田尚樹（長崎大）

- 9:00～9:30 話題提供：「内部被ばくの線量とリスク：外部被ばくとの比較」
-----甲斐倫明（大分県立看護科学大）
9:30～10:10 討論（指定発言含む）

VI. 市民への発信：市民の立場から、今後何が必要か？ 進行役 松本英樹（福井大）、田内 広（茨城大）

- 10:30～11:00 科学コミュニケーションのあり方 -----渡邊正己（京都大）
11:00～11:40 討論（指定発言含む）

11:40～11:50 閉会の挨拶 -----宮川清（日本放射線影響学会長）

(なお、それぞれのディスカッション項目で、スライドを使用した発言希望を参加時に受け付けます。受理についてはオーガナイザーにご一任下さい。)緑でマークした者は、科学技術プログラムの参加者である。